

2009年度

科目名	出版文化 I		
担当教員	高橋 圭一		
配当	日文2	コード	24170
開期	後期	講時	火曜日4限
		単位数	2
授業テーマ	江戸時代の本屋と本。		
目的と概要	江戸時代は現在につながる出版が始まった時代である。出版はそれによって日本文学史を前後二分することが可能なほど大きな変革であった。この講義では出版の意義から説き起こし、京都・大坂・江戸の特色ある本屋を紹介し、さらに江戸時代の貸本屋とその読者に及ぶ。		
成績評価法	授業終了時に課するレポートに、平常点を加味する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	『江戸時代の図書流通』(長友千代治 思文閣出版) 他、随時紹介する。		
履修に当たっての注意・助言	明治期を対象とする「出版文化Ⅱ」も併せて受講してほしい。		
講義計画			
第1回 出版の始まり、その文化史的意義。 第2回 整板本(江戸時代の活字本)について。実物を見る。 第3回 江戸時代の出版物色々(於図書館)。 第4回 京都の本屋。本屋商売の始まり。 第5回 続き。 第6回 大坂の本屋。井原西鶴の本の出版を中心に。 第7回 続き。 第8回 江戸の本屋。葛屋重三郎(写楽や歌麿を世に出した人物)を中心に。 第9回 続き。葛屋の吉原細見のことなど。 第10回 続き。洒落本・黄表紙・狂歌絵本のことなど。 第11回 続き。寛政の改革と葛重。 第12回 本屋の周辺。板木屋・表紙屋・刷り師など。 第13回 貸本屋について。馬琴と貸本屋。 第14回 名古屋の貸本屋、大野屋惣八について。 第15回 明治の作家と貸本屋。			